

行政評価シート【分野別施策】

分野別施策 4－⑤

交通の利便性・快適性を高める

目指す姿

●交通インフラ※¹が充実するとともに、どこへ行くにも円滑で快適な移動が実現し、買い物をする人や友達と会う人など、それぞれが不便を感じることなく目的地までたどり着けています。

※¹ 道路や路線バスなど交通に関連した産業や生活の基盤として整備される施設のこと。

成果指標の達成状況

指標名	実績値					目標値
	計画 策定時	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2027 年度
自動運転バスの運行路線数【累計】	—	0 路線	0 路線			1 路線
幹線道路★ ¹ における交差点や歩道の整備箇所数【累計】	—	2 箇所	2 箇所			2 箇所
平塚駅 3 km 圏の自転車ネットワーク整備率	49%	66%	79%			100%

★¹ 国道や県道に接続する市民の生活上重要な道路や、地域住民の生活上特に重要な道路のこと。

施策の推進に向けた主な取組の「成果」

- ・バス停待合環境では、バス待ちスポット 1 箇所（西部福祉会館内）の設置について、協議を開始しました。サイクル&バスライド駐輪施設では、保健センター敷地内に自転車 10 台を収容できる施設を整備しました。
- ・自動運転バスの実証実験では、国産大型電気バスの使用、路上駐車回避区間の拡大、日没後の運行等の検証をしました。また、有償一般試乗を実施し、約 1,300 人が自動運転バスを体験しました。
- ・市内タクシー事業者に市の補助を活用して導入された 8 台を含む、計 26 台のユニバーサルデザインタクシーが導入されました。
- ・幹道 22 号真土金目線の交差点改良事業について、真土小入口交差点から東側では歩道整備のため、用地買収と物件移転補償を行いました。
- ・幹道 3 号八幡愛甲線など、12 路線（総延長約 4.4 km）に矢羽根表示の整備を行い、自転車走行環境の向上を図りました。

施策を推進する上での「課題（・）」と、課題解決を図るための「取組方針（⇒）」

- ・バス停の待合環境や駐輪場の整備の向上が望まれており、公共交通を利用しやすい環境を整える必要があります。
- ⇒バス停の待合環境やサイクル&バスライドの整備により、更なる交通結節点の強化・利用促進をします。
- ・主に郊外部で交通空白地域や交通不便地域があり、加えて、バスの運転士不足が深刻化し、公共交通の維持の必要があります。
- ⇒自動運転バスのレベル4運行（特定条件下における完全自動運転）に向けて、実証実験により実行性を高めるとともに、運行に対する市民の理解と機運を高めていきます。
- ・タクシーを利用した移動の利便性や安全性を向上させるため、国が定める基本方針に基づき、計画的なユニバーサルデザインタクシーの導入を図る必要があります。
- ⇒国の補助制度を活用し、計画的に導入が進むようタクシー事業者と協議します。
- ・交通集中による混雑が発生しており、交通の円滑化と歩行者の安全を確保する必要があります。
- ⇒幹線道路の交差点や歩道などを整備するため、計画的に事業を推進します。
- ・平塚市では自転車の利用が多く、自転車の安全な通行空間とその連続性を確保する必要があります。
- ⇒平塚駅から約3km圏域における通勤、通学、買い物等の日常のネットワークを中心に整備を進めます。

関連事業

路線バス利用促進事業、路線バス運行維持支援事業、幹線道路整備事業、タクシー利用促進事業、自転車通行帯整備事業